

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270902693		
法人名	医療法人社団 寛麗会		
事業所名	グループホームうららか船橋		
所在地	船橋市金杉9-8-22		
自己評価作成日	令和6年12月 18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17		
訪問調査日	令和7年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・月間報告による、ご様子のご報告
・歯科医による定期的な歯科診療
・感染対策を実施しての直の面接の継続

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建屋は年数は一定経過しているものの手入れが行き届き清潔感がある。利用者は全員女性であり、利用者が集うリビング(居間)壁面には利用者の手になる貼り絵等が飾られ、穏やかな雰囲気が漂う。職員不足に対応して介護記録ソフトを導入し業務の効率化と情報共有化を図る、夜間勤務を専門職員にするなどで乗り越えている。利用者の日常の暮らしぶりを伝える為に、写真入りのうららか通信や、来訪時や電話で日頃の状況をしらせており、今回の家族アンケートでは運営や職員対応への評価は概ね高い。法人が訪問歯科医であり、健康は食べることからを掲げ、定期的な口腔ケアの実施、かかりつけ医・訪問看護師での医療面での支援を強めている。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		事業者様で記入 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 医療法人社団 寛麗会	法人の理念を掲示し、職員全員がその理念に基づいてサービスを実践している。	3項目からなる理念を玄関や事務所に掲げ、日常の支援に活かしているかを、話し合っている。	年に1回、短時間でも良いので、年間研修会の日程に追加して、その理念の再確認をご検討頂きたい。
2	(2)	グループホームうららか船橋 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の公園へ散歩にでかけたり、近隣のスーパーでの買い物をしている。	自治会に加入済であるが、自治会行事の草取り、ごみ掃除には職員が参加している程度である。地域行事での付き合いも少ないので、今後近隣との交流は検討中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のゴミ拾いの参加。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣施設と同時開催をしていたが、該当施設が閉鎖になってしまった。 閉鎖に伴い、入居者2名の受入れを当施設にて実施。	7月までは他ホームとの合同開催であったが、11月以降は当ホームでの単独開催となっている。中部包括支援センター及び家族が参加して、運営状況や課題について話し合っている。家族からの提案として、ネイルやオイルマッサージの提案があり、実施を検討している。	外部の方の参加を呼び掛けて、自治会長や民生委員等の出席者を増やす事に取り組んでいただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話やメールでのやり取りをし、協力関係を維持している。	市の生活支援課、高齢者支援課、指導監査課との交流があるが、大半はメールや電話でやり取りしている。生活支援課職員は、時々来所しており、相談事項があれば必要な都度、市役所訪問して、情報共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置、また定期的な研修を開催し、身体拘束の防止に努めている。	身体拘束しない介護を目指している。適正化指針は制定され、身体拘束虐待委員会を年間6回開催、年間研修計画に基づき、研修を実施している。現状は、拘束が必要な利用者はいないが、必要な場合は手順に基づき実施予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置、また定期的な研修を開催し、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な研修を開催し、学ぶ機会を持っている。また、現在1名の利用者が後見人制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、職員が2名以上で対応し、過不足のない説明が行われるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者のご家族の要望を把握できるよう、ご家族とは定期的に連絡を取り、意向の聞き取りを行っている。	利用者全員の顔写真入りのうららか通信を毎月送付している。アンケートによれば7割の家族が月1回は来訪されるので、その際話し合うようにしている。その他に電話、メール(LINE含む)で話し合い、運営推進会議に参加された家族より、ネイルやオイルマッサージの提案があった。	ホームとしてはいろいろな手段で外出を工夫し連絡してるが、外出支援に関しのアンケートには「わからない」の意見があった。家族に対する情報の伝え方についてご検討頂きたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談の実施。	人事評価制度があるので、管理者は定期的に職員ヒアリングを実施、毎月のホーム会議や日常介護中でも気軽に話し合い、意見要望を確認して、その実現や解決に取り組む。管理者の判断を超える場合は、本部に相談し対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、人事考課シートを活用したセルフチェック及び管理者による評価を実施し、働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職務上必要な場合、外部の研修への参加を促進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に、近隣施設や保健センターの職員に参加していただき、情報共有を行っている。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の段階で、ご本人の要望を聞き取り、安心して生活していただける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の段階で、ご家族の要望を聞き取り、安心して生活していただける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が来所された際や、電話やメールにて こまめにご家族の要望を伺っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に食事作りや洗濯干し、畳み、また掃除などの家事を行い、認知症の進行の予防に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊、また通院など ご家族と協力しながら、なるべくご本人と関わっていただけるよう、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話でのやり取りをしていただき、関係を継続していただけるよう支援している。	月に1回、家族にその利用者の詳しい状況報告と写真を掲載した「うららか通信」を送付している。面会は感染症対策を行いつつ実施されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで他者と交流していただけるよう、職員が会話の橋渡しを行ったり、家事などの作業を共に行っていただくことで、孤立してしまわないよう努めている。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族や成年後見人と連絡をとり、経過のフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のミーティングにおいて、一人ひとりの必要を把握し、職員一丸となってより良いケアを実践できるよう話し合いを行っている。	月に1回開催されるフロアミーティングで職員の意見や日々ケア中の気づきを聞き、利用者の思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、これまでの生活歴や住まい方など、ご本人、ご家族から聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のミーティングにおいて、定期的に一人ひとりの生活リズムを見直し、適宜 ケアの方法を調整するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングや日々の記録を参考にし、現状を把握した上で、ご本人に合った介護計画を作成している。	タブレットと各種の記録用紙を用いて記録を行い、職員が情報を共有している。ミーティング前に利用者全員の一覧表に職員の意見や気づき等を記入して課題を明確に把握している。利用者本人・家族を含めた計画が作成され、チームで現状に合った計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間とこまめな記録を残し、様子の変化や気づきを共有できるよう、申し送りやカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の協力を得て、できる限りご本人とご家族の要望に応えられるよう、対応している。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族の協力を得て、できる限りご本人とご家族の要望に応えられるよう、対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を月に2回実施。 緊急時には臨時の診察もあり、適切な医療を適切なタイミングで受けられるよう支援している。 契約している医療機関に限らず、ご家族が望まれる医療機関を選択することもできる。	事業所のかかりつけ医(内科・精神科)の訪問診療が月2回あり、在宅時の医師に継続して受診している利用者もいる。月4回、利用者全員が訪問歯科を受診して口腔内清掃が行われ、誤嚥性肺炎予防と食事を口から食べる支援を積極的に実施している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による巡回を行っており、利用者の変化に迅速に対応できるよう、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供シートなどを活用し医療機関へ速やかに情報提供を行っている。 また、入院中もこまめに連絡をし、スムーズに退院後の受け入れができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設にて行えることと、行えないことを明確に説明し、場合によっては容態や体力に合った施設への転居を申し出ることもある。	入所の契約時に重度化・終末期における対応指針を用いて家族に説明を行い、入所後、介護度が重くなってきた時点で再度、説明と相談をしている。年間3回看取りについての職員研修があり、心構えや対応等の職員教育をしている。昨年、2名の利用者のホームでの看取りが行われた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法については、マニュアルを作成し、事務所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を実施し、緊急避難誘導の訓練を行っている。	消防署立ち合い消防訓練を1回と地震想定自主避難訓練を1回行った。ウォーターサーバーに飲料水が設置され、食品の備蓄が多少ある。BCP(事業継続計画)は作成中である。	当ホームで想定される地震と台風等の自然災害対策の早急な作成が望まれる。備蓄庫にある非常用食品や衛生品等のリストと補充確認日、責任者を明確にする事を検討願いたい。

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳の人格を尊重したケアが実践できるよう、定期的に研修を行っている。	利用者の名前の呼び方や話し方等、親しくなっても礼儀をもった対応をするように気を付けている。特にトイレ使用時にドアを開けたままにしないように指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で過ごしたい、リビングで過ごしたい、散歩に行きたい、等の希望を伺い その希望に沿った過ごし方をしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時、また入浴の際にはご自身で衣類を選んでいただくよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事形態を定期的に見直し、食べやすい工夫をしている。また、その方の能力に応じて、食事作りや片付けを分担していただいている。	食材宅配業者から食材が配達され職員が調理している。むせやすい利用者には刻み食を極刻みにして口から食べれるよう支援をしている。季節の行事食を職員が工夫して提供している。野菜切りや皮むき等を率先して行う利用者があり楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が進まない方には、医師と相談し 栄養補助飲料を処方していただく等の対応を取っている。また、水分は1200cc/日を目安に摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	母体が歯科医のため、毎週の歯科診療にて定期的な口腔ケアを実施。また、毎食後のケア方法も歯科医や歯科衛生士に相談しながら、本人の口腔状況に合わせたケアを実践している。		

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ代の費用負担も考慮し、なるべく失禁を避けられるよう、本人のペースに合わせたトイレ誘導を実施。	バイタル・排便状況、排便コントロールの薬剤等、利用者毎の健康面の要点を一覧表にして支援を行っている。失禁の状況をみてその時よりも早目にトイレ誘導を行いトイレでの排泄が出来るように留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が滞ってしまった場合は、乳飲料を提供したり、また医師に相談して薬によるコントロールを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤をしようしたり、また 季節に合わせて柚子湯や菖蒲湯など、季節を感じていただけるよう工夫している。	週2回の入浴を行い、2種類の入浴剤を希望を聞いて用いたり、ゆず湯を入れることもある。車椅子利用者は安全面からシャワー浴にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活リズムに合わせて、入床・起床をしていただいている。また、朝寝を希望される場合は、ご自身の要望に合わせるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師と連携を図り 一つ一つの薬の内容を把握できるよう、書面を作成。 また、薬が変更された場合は 職員全体に情報共有を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居後も家事などの作業を継続していただくことで、役割を持ち、ご本人が持つ力を低下させないよう、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策を講じながら、買い物や散歩の機会を取り入れている。また、ご家族との外食や外泊の機会も大切にいただいている。	職員が買い物に行く時に個別で利用者と共に出かけたり、季節の良い時期に少人数で散歩に出ている。外へゴミ出しに職員と出たり、駐車場で外気浴することもある。	

自己	外部	項 目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、ご家族と相談した上で 職員がお預かりしているが、ご本人で管理することを望まれる場合は、馴染みの財布に現金を所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合には、手紙を書いたり電話をかけていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、ご利用者の安全に配慮した造りになっており、室温・湿度を定期的にチェックし居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。	リビングから廊下、トイレ、居室へと分かりやすい配置になっており、利用者が貼り絵や折り紙で作った「壁画」が掲示されている。使用済みパット類を定期的に外に出し臭い対策を行い居心地よく過ごすことが出来る共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士で近くに座っていただけるよう、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、これまでずっと使用してきた家具や寝具などを持ち込んでいただき、安心して過ごしていただけるよう工夫している。	自宅から家族写真や思い出の品、レクリエーション時の作品、仏壇などが居室にあり、落ち着いて過ごせる工夫がされている。ベッドと家具が動線と安全性に配慮し設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室など、場所が分かるよう見やすいポップを掲示している。また、動線内に つまずきの原因になるような物は置かず、安全に生活していただけるよう配慮している。		